

## 特集 3

# 「主体的・対話的で深い学び」の実現を、 学校全体で進めていくために ～校内研修のすすめ～

特集1で示したように、「主体的・対話的で深い学び」を行っている学校は、大きな成果が現れていることが分かります。このような「主体的・対話的で深い学び」を実現するには、校内研修を充実させ、学校全体の組織で授業改善に取り組む必要があります。

### (1) 学校全体で「校内研修を軸にしたPDCAサイクル」を確立

※ 成果の出ているA小学校

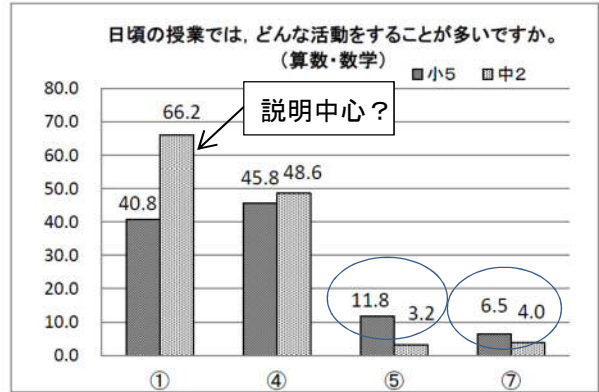
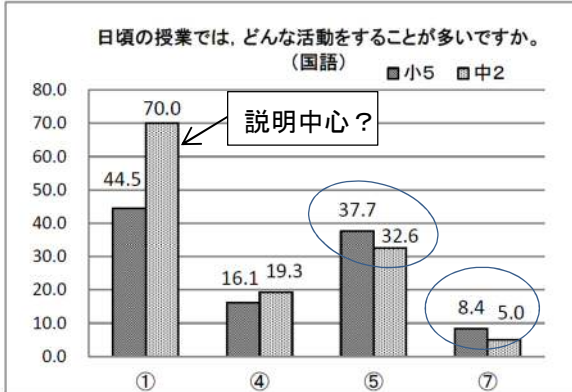
	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>1～6年の全職員で「全国学力・学習状況調査問題」を解き、<u>研修係を中心に誤答傾向についてまとめる。</u></li> <li>誤答傾向から、本校の児童の傾向をつかみ、<u>管理職が校内の指導方針を固める。</u> (課題があったところを、<u>全職員で年間指導計画に朱書きで記入する。</u>)</li> </ul>
	5月	
	5月～7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導方針に基づき、<u>各教員が授業実践を行う。</u></li> </ul>
	8月	
	8月末～9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>「主体的・対話的で深い学び」について、<u>大学教授等の外部講師を招いて校内研修を実施する。</u></li> <li>学力向上担当を中心に、平成29年度調査結果を<u>全職員で共有するとともに、管理職が校内の指導方針を再確認する。</u></li> </ul>
	9月～3月	
	10月～1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>再確認した指導方針に基づき、<u>各教員が授業実践を行う。</u></li> <li><u>各教員が学力向上支援Webシステムの評価問題を授業や宿題などで活用する。</u></li> <li>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について、<u>相互授業参観と連動した校内研修を実施する。</u></li> </ul>
	2月	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職が次年度の<u>年間指導計画と校内研修計画を立てる。</u></li> </ul>

※ 管理職，研修係，学力向上担当，各教員それぞれが自分の役割を明確にした校内研修体制を確立し，校内研修を軸としてPDCAサイクルに取り入れることで，学校全体の組織で授業改善に取り組むことができます。

(2) 校内研修で課題を共有する工夫 ～調査結果を分析するときの視点～

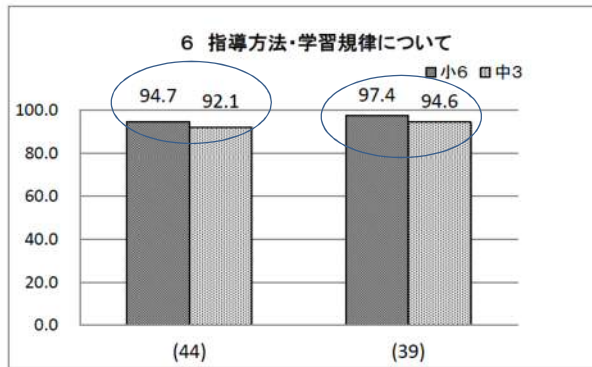
ア 2つの調査の「児童生徒質問紙」から、児童生徒の実態を把握する。

(7) 平成28年度鹿児島学習定着度調査「児童生徒質問紙」から



- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| ① 先生の説明を聞く      | ④ 自分の頭でじっくり考える      |
| ⑤ 自分の考えを文章にまとめる | ⑦ 自分の考えや資料をもとに、話し合う |

(イ) 平成29年度全国学力・学習状況調査「学校質問紙」から

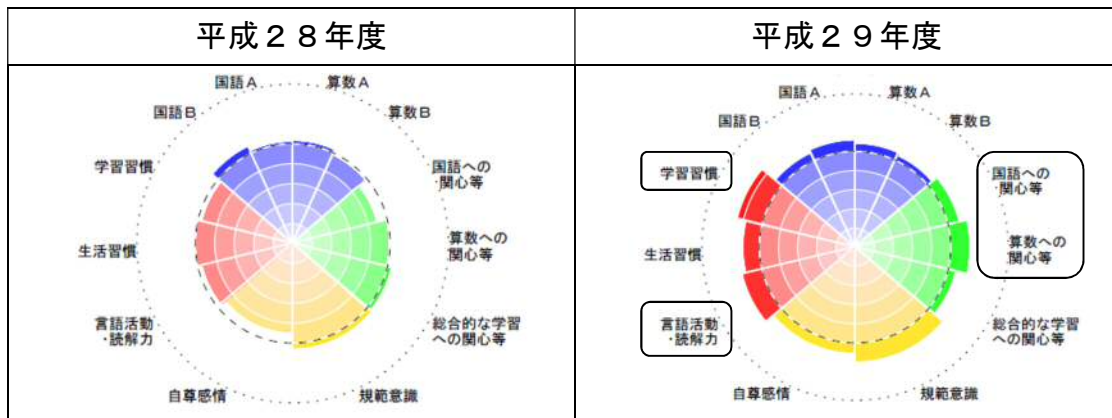


- (44) 調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした
- (39) 学級やグループで話し合う活動を授業などで行った

※ 2つの調査は、現小6、現中3の児童生徒が対象ですが、「児童生徒質問紙」と「学校質問紙」の結果には大きな開きがあります。児童生徒の受け止めから授業を振り返ることは、授業改善の第一歩です。それぞれの学校ではどうでしょうか。

イ 昨年度との比較から、児童生徒の実態を把握する。

「全国学力・学習状況調査結果チャート一覧(都道府県－児童生徒)」から(A小学校)



※ 平成28年度・29年度の「児童生徒質問紙」を比較すると、A小学校では、児童の「国語・算数への関心等」や「言語活動・読解力」が高まり、「学習習慣」が身に付いたことが分かります。